三里塚 二期工事阻止へ

3・26闘争一周年総決起集会開かる 全国より一万七千名の結集

空港突入、管制塔占拠をもって3・30開港策動を粉砕した3・26開港阻止総力決戦の大爆発より一周年を迎えた三月二五日、反対同盟主催の集会が開かれた。

一万三千の機動隊を動員して昨年五月二〇日、開港は強行されたが、十四年間の不屈の闘いを続ける反対同盟を中心とする全国人民の闘いはさらに高揚し、二期工事阻止、三里塚空港完全廃港へ力強くバク進している。さらに「開港」によるジェット騒音被害は多くの周辺住民を新たに決起させている。

一方動労本部革マル派による統制処分攻撃に対し、動労千葉地本は、動労より独立し、新組織千葉動労を結成し、反対同盟と共に闘い抜く事を決定した。

全国人民は3・26闘争の地平を共有し、さらなる闘いを展開して行くであろう。

三月二五日正午過ぎより三里塚・芝山連合空港反対同盟は「3・26一周年、二期工事実力阻止全国総決起集会」を開催し、会場の三里塚第一公園は全国から結集した一万七千名の労農学によって埋め尽された。

最初に登壇した戸村一作委員長は「昨年の3・26には管制塔に赤旗を打ちたてた。今度は管制塔を根本からたたきつぶそう」とゲリラ闘争の必然性を述べ、「政府、公団の『話し合い』に切応じる事なく、二期工事を実力で阻止し、空港を完全廃港に追い込むまで闘い抜こう」と力強く訴え、満場の喝采をあびた。

続いて動労千葉地本の代表が「当局、動労本部の弾圧をはねのけ、ジェット燃料輸送阻止闘争に勝利する」と決意を表明した。

さらに各地で権力と闘っている団体からのあいさつが次の順で行れた。日本原反対派農民、全関西新空港反対同盟、部落解放同盟、高浜入婦人行動隊、女川ダム反対同盟、成田市民の会、千葉県教組、全障連、ここで全金本山支部より緊急アピールがなされ、全金官城地本から統制処分攻撃がかけられた事を報告、「労働運動の右傾化を乗り起え、反対同盟と共に闘う」と決意表明し、支援を訴えた。

その後、豊北原発反対派住民、沖縄反戦地主会、奄美青年同盟、大東京実行委員会、連帯する会の順で発言が続いた。

三里塚闘争「被害」家族会のある母親は「公判を見て裁判のデタラメさや、国がどんなにひどい事をするかを理解しました。皆さんも頑張って下さい」と述べ、熱い拍手をあびた。

さらに三里塚戦士の獄中アピールが読み上げられ、続いて東山君虐殺糾弾裁判闘争の報告、顧問弁護団からの報告があった。

二期工区内代表として木の根の小川源さんが「地下要塞、人間要塞でもって二期工事を絶対に許さない」と決意を表明し、「木の根に反対同盟、全国人民の力で農業用水を作ろう」と述べ、支援を訴えた。続いて婦人行動隊、老年行動隊の決意表明、反対同盟から全金田中支部への作物カンパの報告と田中支部のアピールがあり、ここで本日の会場カンパが一四〇万円に達した事が報告された。

内田行動隊長のデモ指示の後、熱田副行動隊長が以下の闘争スローガンを読み上げた。

○飛行阻止・二期工事阻止
完全廃港を勝ち取ろう
○本格的パイプライン反対
○周辺住民と力を合わせ、騒音の元凶を叩き出せ
○農業振興策粉砕
○当局、動労本部の敵対を粉砕、ジェット燃料輸送阻止
○北原鉱治事務局長を成田市議に
○獄中同志の即時奪還

満場の拍手喝采によるスローガン採択後、ガンバローを三唱して午後四時過ぎ閉会し、権力によるデモコース変更に抗議しつつ、機動隊を圧倒する大デモンストレーションを展開した。

3・25三里塚第一公園

2.11 紀元節粉砕 日本原総決起集会

二月十一日、岡山県北奈義町日本原にて「紀元節粉砕、元号法制化粉砕！　実射阻止！　5・16投石弾効！　軍用道路建設阻止！　2・11日本原総決起集会」が日本原婦人の会、青年反対同盟、国有地耕作者組合の主催で開かれた。

集会には一五〇〇名の労働者、農民、学生が結集し、岡大からは全学活動者会議（準）を中心に約三〇名の学友が決起した。

正午より集会が始まり、まず地元農民を代表して鷲田さんが登壇し、「日本原にも三里塚にも法律はない。国が自ら法律を踏みにじっているのであって、我々は正しい闘いをしている」とあいさつした。

続いて12・18弾圧、5・16訴訟、「不法」耕作地使用訴訟の報告があり、その後支援団体のあいさつが次の順で行われた。部落解放同盟岡山県連青年部、同奈良県連青年部、三里塚・芝山連合空港反対同盟、中核派、解放派、プロ青同各三里塚現闘、社会党町会議員、関西新空港反対同盟、岡山婦人民主クラブ、反戦被爆者の会、日本原農民田中さん、国労倉吉支部、広島県教組、岡大全学活動者会議（準）、被爆青年同盟。青、砂川基地反対同盟、北富士忍草母の会、立川自衛隊監視テント村、朝霞基地解体実、七尾火電反対青年同盟、動労千葉、全金田中支部からはメッセージが寄せられた。

中核派、解放派、馬天嶺の各現斗のアピールの後、主催の農民団体の決意表面があり、自衛隊が入会権、通交権、環境権、耕作権の四つの権利を否定している事、12・18弾圧で田の中にいた者にまで道交法を適用した事を糾弾し、不当逮捕に負けず闘う、と力強くアピールした。

集会後二千名の機動隊の弾圧をはねのけ、全員日本原基地ゲート前までのデモを圧倒的に貫徹した。

入学式で「生学連」を糾弾

四月九日の入学式は午前十時より清水記念体育館で行なわれた。その際、体育館前で各サークルの新入生歓誘にまぎれこんで、「生長の家学生会連合」（生学連）分子がオルグ情宣活動を展開しているのを学友が発見。ただちに数名の学友が糾弾を行った。

「生学連」は親組織「生長の家」と共に現在各地で「大日本帝国憲法復活」「元号法制化」、「学園に日の丸を運動」などと叫んで活動している天皇制右翼であり、京大、長崎大などでは完全武装して、闘う学友に襲いかかるなどしている許すことのできないボナパリスト集団である。

学友の鋭い追求に対して彼らは、「大東亜戦争は欧米植民地主義に反対して日本が戦った解放戦争である。」「天皇陛下は深く平和を愛されている。大日本帝国憲法復活は当然だ。」などと、帝国主義本国＝日本に住む自らを告発しようとしないばかりか、かって何千万というアジアの同胞を血の海に沈めた侵略者の論理を平然と並べたてたのである。そしてあろうことか、あの血塗られた〝昭和〟の歴史をたたえ、「欧米の植民地主義と再び戦う」などと、積極的に侵略戦争を美化、推進する立場を明らかにした。

考えてもみよ。あの太平洋戦争が一体どれほど醜く、血で染められたものであったのかを。アジアの民衆の日本軍に対する血の叫びを。そして、日本人として生きるなら、当然過去の侵略者としての自らを告発し、負債としてとらえ、侵略戦争に対していかねばならないのだ。彼ら「生学連」の主張は、過去を全く総括せず、再び日本人を戦場にかり出し、アジアの仲間に血の強制をする論理である。

我々はこのような右翼反革命の白昼公然の登場を絶対に許してはならない。同時に、再度太平洋戦争を捉え返し、戦争について考えていかねばならない。今、日本の企業が東南アジアの韓国の人民を奴慧化していることを直視せよ。生学連を岡大から一掃せよ。

居直る「生学連」メンバー

学生部長に長堀教授

理学部、農学部の各学部長および、学生部長の任期満了に伴い次期学部長および学生部長が決定した。

今回学生部長に決った長堀金造教授は、前農学部長で、農学部農業工学科農地整理学、農学博士である。なお、長堀教授は農学部長当時に、「農薬空中散布を阻止する会」が島村演習林長との団交で取りつけた散布延期の確認を、一方的に反古にした前歴があり、今後青桐寮・学友会新ボックス問題に関する対応が注目される。

前農学部長の長堀教授に変って農学部長に決ったのは、白石正英教授で、農芸化学科生物化学、農学博士である。

前理学部長岩田清二教授にかわり理学部長に決ったのは、逸見吉之助教授で、逸見教授は地学科、地化学理学博士である。

長堀学生部長

1F
Uccコーヒー
ピザ・バーガー・定食色々
軽食喫茶
ロビン

2F
ジャンボお好み焼・
焼そば・生ビール
エーゼル

パン・生クリームケーキ
タカキベーカリーの店
ポプラ

バイト募集　委細面談優遇…数名
岡大正門通り（三愛病院トナリ）☎53－2374㈹